



黒畑小だより

今年度の合言葉 「元気におはよう
笑顔でしようなら」

【学校教育目標】

家庭や地域との連携を図りながら「豊かな心と、たくましい体をもち、自ら学び自ら考えることのできる、自立する力をもつ子ども」を育成する

北九州市立黒畑小学校 文責 校長 折田 清志

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

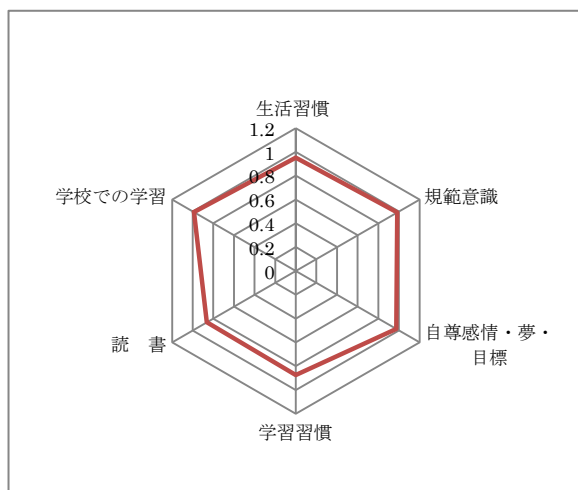
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることができません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	ローマ字や漢字の読み書きに関する問題の正答率が低かった。繰り返し練習することで定着させる必要がある。	下回っている
国語B	記述式だけでなく、選択式の問題に対しても無解答率が高い。文章量が多く、読む前に諦めている傾向が見られる。長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは何かを判断する力が必要である。	下回っている
算数A	図形・数量関係領域においてはほぼ全国平均である。基礎的な計算力についての定着が今一つであり、繰り返し練習することで定着させる必要がある。	下回っている
算数B	記述式の問題に対し、無解答率が高い。特に後半の問題になるほどその傾向が強くなっている。辛抱強く問題に取り組む姿勢を日頃から身に付けさせるとともに、時間配分のしかたについても指導する必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・読書を好まない児童の割合が増えた。
- ・文章を書くことに抵抗感を持つ児童が多い。各教科の中で書く習慣をつけることが必要である。
- ・算数科においては、関心や意欲をもっている児童は多いが、学力に結び付くまでに至っていない。
- ・平日にテレビやビデオを見る時間は減少してきているが、2時間以上見ている児童がまだ半数以上いる。学習習慣の確保や健康管理の面からも大きな課題である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

記述式の問題に対する無解答率が高い。各教科を通じて授業の終わりに振り返りを書かせる活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

宿題の量を学年間で統一するとともに、提出物の確認を確実に行う。また、積極的に自学ノートに取り組んでいる児童のノートを掲示することで、他の児童への意欲付を図る。